

新型コロナウイルス感染症に罹患した 認知症患者をケアする看護師の困難

石川県立こころの病院 梨子村沙織 江村泰誠 岡田明希
富山県立大学看護学部 遠田大輔

要約

本研究では、認知症患者の入院病棟で起こった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のクラスターに介入した看護師に対してアンケートを行い、患者へのケアを行う際に生じた困難について明らかにすることを目的とした。

COVID-19 のクラスターに介入した看護師 86 名に自記式質問紙調査を実施した。看護師の属性、勤務状況について基本統計量を算出、看護師の困難の自由記述については、KHCoder ver. 3 を用いて共起ネットワークを作成した。

分析の結果、看護師の属性は女性 44 名 (72.1%)、看護を行う中で自身も COVID-19 に罹患した看護師は 28 名 (45.9%) であった。自由記述を共起ネットワークにて分析した結果、看護師の困難は 9 のネットワークに分類された。

COVID-19 に罹患した認知症患者をケアするうえで、看護師は患者の感染予防に関する困難や、身体抑制・行動制限に対するジレンマなどを抱えていた。認知症の特性を踏まえた感染管理の実施や、看護師への感染対策教育を強化する重要性が示唆された。